

ニホンザル被害の防除

福島県林業研究センター 森林環境部

平成14年度福島県林業研究センター研究報告

1 部門名

林業－病虫獣害－被害の要因・被害形態

分類コード 18－10－28000000

2 担当者

石井洋二

3 要旨

桑折町から国見町にかけての地域と、飯舘村大倉を中心に生息するニホンザルの群れを、移動ラジオテレメトリー法及び目視カウント法により調査するとともに、国見町と飯舘村で実施したアンケート結果を解析し、農林作物被害地の立地環境の特徴を明らかにした。また、被害地に赤外線自動撮影装置を設置し、出現するサルを作物収穫期から収穫後にわたって記録した。これらの結果より、被害防除策を以下のとおり考察した。

- (1) 遊休桑園がサルの餌場と化しており、サルに好適環境を与えていた。このことから、遊休農地の適切な管理が被害を軽減する上で重要であると考えられる。
- (2) 農地の被害に最も影響を与える因子はS.F.値(被害地とサルの生活圏である森林との接点の割合)であり、次に集落からの距離(m)等であった。これは、農地と森林の接している部分がサルの侵入口となり、さらに藪化した下層植生によりその多くが視界不良であるため、サルの隠れ家として好適な環境になることが原因と考えられる。よって、被害を軽減するためには、これら侵入経路を減少もしくは分断するための管理が必要となる。
- (3) サルの被害地への出現頻度は、作物の収穫期間中は連続的に高く、収穫後にもその頻度が低下するものの断続的に出現し、畑地に残存した未利用部分や、カキなどの食餌木などを目当てに侵入することが確認された。したがって、作物収穫後における残存物の完全な除去や、サルの食餌木となりうる樹木の適切な管理が、被害軽減の上で重要であり、収穫期のみならず収穫期以外をも含めた長期間に渡る警戒が必要となる。

4 その他の資料等

なし